

## 平成 30 年度 椿の挿し木・育て方講習会報告

事務局 小泉不二男

椿の挿し木・育て方講習会も今回で 21 回目を迎えました。

今年、稲敷郡美浦村にある「みほふれ愛プラザ」を会場にしました。

21 年前、土浦駅前「県南生涯学習センター」を皮切りに、「亀城プラザ」、「筑波実験植物園」、「どらすて」、「県フラワーパーク」とこれまで会場を移してきました。

今年 1 月末、初めて美浦村で椿展を開催しました。会場の「みほふれ愛プラザ」が開館したばかりで真新しく会員に好評だったこともあって、今度は講習会の会場としてお借りすることになりました。

期日は、7 月 15 日 日曜日。

今年、梅雨明けが 6 月 29 日で平年より 1 か月も早く真夏が到来しました。西日本に大災害をもたらした豪雨も去った 15 日は東京で 35 度の予報でした。

10 時に穂木採りに椿畑に行くとなすでにじりじりする暑さ。高枝鋏で樹冠の長めの新梢を狙って四苦八苦しているうちに、滴る汗で水をかぶったほどにシャツが濡れました。

格闘 2 時間ののち、枝を車に積んでプラザへ移動。駐車場の焼けたアスファルトの熱気を感じながら、何度も往復して研修室に搬入。くたくたになりましたが、三々五々集まってくる会員と笑顔で挨拶を交わしているうちに生気が戻ってきました。



今回の一般の方の申し込みは 17 名。

6 月 23 日にまず読売新聞に写真付きで開催予告記事が載り、その後も他の新聞や常陽リビングなどのタウン誌に掲載されたこともあり、申し込みがありました。また、開催を知った美浦在住の椿ファンの皆さんも声掛けをしてくださいました。

ところが当日、実際には 25 名の参加者がありました。申し込みなしで参

加された方も多かったのです。用意した苗や資料が足りなかったり、机を急ぎよ並べたりとばたばたしましたが、うれしい悲鳴でした。結局一般25名と会員参加を合わせて40名でした。ここ数年で有数の参加者でした。

予定どおり2時開会。

会員の飯田庸夫さんが初心者にも分かるように丁寧に挿し木を講義。資料は、昭和59年日本ツバキ協会発行のパンフレット「初心者のための体験的ツバキ栽培の手引き」を用意しました。少し古いものですが、4月に理事会で江戸川橋の協会本部に行った際に、書棚で見つけ、イラストが桐野先生を感じですし、中村恒雄先生のお名前があったので使うことにしました。

講義のあとの質疑応答も次々と質問がでて、活況でした。

そのあとプレゼント苗の「ブラックマジック」や配布した挿し木用穂木の品種について説明をしました。

予定した3時半前でしたが、メディアが朝から熱中症注意を流し続けていることもあり、会場の後部に用意した飲み物を摂っていただくためにも早めの散会としました。

別紙で配布の穂木のリストをあげておきます